



丹後地域における府立高校の在り方懇話会 ＝ 第3回懇話会 配付資料 ＝

(平成28年6月8日)

別途 配付	第1回・第2回懇話会での主な意見
----------	------------------

資料 No.	名 称	頁番号
1	丹後地域における府立高校普通科の学区別公立中学校3年生数及び 募集定員の推計	1
2	丹後地域の府立高校における今後の募集定員について(推計)	2
3	学校の小規模化により予想される教育内容等への影響(例示)	3
4	丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方	4
5	学舎制のイメージ・導入により広がる可能性や課題	7
6	丹後地域の中学校・高等学校の配置及び中学校別在籍状況	8

丹後地域における府立高校普通科の学区別公立中学校3年生数及び募集定員の推計

※平成27年度=5月1日基本数調査(確定値)によるデータ

※平成28～35年度=平成27年5月1日基本数調査(確定値)による推計データ

※平成36～41年度=各年出生数(暦年)からの推計データ [各年出生数×現小1～6年生の(中3生時推計数/出生数)の平均率]

学校名	普通科の学区	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
		28年度選抜 H28:高1	29年度選抜 H28:中3	30年度選抜 H28:中2	31年度選抜 H28:中1	32年度選抜 H28:小6	33年度選抜 H28:小5	34年度選抜 H28:小4	35年度選抜 H28:小3	36年度選抜 H28:小2	37年度選抜 H28:小1	38年度選抜	39年度選抜	40年度選抜	41年度選抜	42年度選抜
宮津	宮津市	169	143	136	134	131	138	140	130	114	96	110	106	105	94	95
	伊根町	14	12	13	13	10	6	4	12	9	4	13	6	13	7	11
	与謝野町 (橋立中学校区)	62	42	50	51	44	50	49	50	52						
	小計	245	197	199	198	185	194	193	192	175	164	154	148	152	148	145
加悦谷	与謝野町 (橋立中学校区除く)	213	152	163	138	170	138	137	123	125						
小計		458	349	362	336	355	332	330	315	300	264	277	260	270	249	251
峰山	京丹後市 (峰山・大宮・丹後(豊栄小学校区に限る)・弥栄中学校区)	341	298	301	298	264	259	255	256	246	414	377	364	353	368	383
網野	京丹後市 (峰山高校の学区を除く)	287	254	247	222	214	205	198	195	203						
小計		628	552	548	520	478	464	453	451	449	414	377	364	353	368	383
丹後地域計		1,086	901	910	856	833	796	783	766	749	678	654	624	623	617	634

※平成36年以降の出生数からの推計については市町別に積算

丹後地域の全日府立高校入学者数	859															
中3生数比	79.1%															
募集定員策定時の生徒受入率 (募集定員÷中3生数)	79.4%															
募集定員推計(中3生数×79.4%)	862	715	723	680	661	632	622	608	595	538	519	495	495	490	503	503
宮津市・伊根町・与謝野町		253	264	243	258	240	238	226	214	185	196	182	191	174	175	175
京丹後市		431	428	406	372	361	353	351	350	322	292	282	273	285	297	297
海洋高校	宮津市他=24 京丹後市=7	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31

※海洋高校の数値は、平成24年から平成28選抜(5年間)の実績数値の平均

丹後地域の府立高校における今後の募集定員について（推計）

☆本表の数値は、1ページの募集定員推計（中3生数×生徒受入率79.4%）をもとに、生徒数比で機械的に割り振った（海洋高校除く）値であり、実際の募集定員とは異なる。

	平成29年 30年度選抜	平成30年 31年度選抜	平成31年 32年度選抜	平成32年 33年度選抜	平成33年 34年度選抜	平成34年 35年度選抜	平成35年 36年度選抜	平成36年 37年度選抜	平成37年 38年度選抜	平成38年 39年度選抜	平成39年 40年度選抜	平成40年 41年度選抜	平成41年 42年度選抜
計	721	681	661	637	621	611	591	541	527	491	491	491	501
宮津高校	150	150	140	150	150	140	130	100	120	110	110	100	100
加悦谷高校	90	80	90	80	70	70	70	70	60	60	60	60	60
峰山高校	240	240	220	210	210	210	200	190	170	160	160	170	170
網野高校	130	110	110	100	100	100	100	90	90	80	80	80	90
久美浜高校	80	70	70	60	60	60	60	60	50	50	50	50	50
海洋高校	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
平均学級数※ (1学級40人)	17.3	16.3	15.8	15.0	14.8	14.5	14.0	12.8	12.3	11.5	11.5	11.5	11.8

※海洋高校除く。



[推計方法等]

- ・「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」(以下、「標準法」という。)第6条において、「1学級の生徒の数は、40人を標準とする」とされているが、本表においては生徒数比等で推計しているため各校の募集定員は40の倍数とはしていない。
 - ・峰山高校栄分校分は峰山高校に計上
 - ・端数処理(1の位を0で統一)の関係上、各年度の計は1ページと同数ではない。
 - ・平成37年度選抜以降の学区毎の生徒数は、平成28年度から36年度選抜の平均比率で割り振り
 - ・海洋高校は府内全域から募集のため平成29年度選抜以降は平成24年度から28年度選抜[5年間]の実績数値の平均[31人]で横置き
 - ・久美浜高校は学区を設定していないため宮津市・伊根町・与謝野町・京丹後市から志願できる。よって、宮津・加悦谷高校の計と1ページの宮津市・伊根町・与謝野町の計、峰山・網野高校の計と京丹後市の計は一致していない。
- ※平成29年度選抜については、現在関係機関等と募集定員策定に向けて調整中のため高校別は記載していない。

学校の小規模化により予想される教育内容等への影響（例示）

■想定される小規模校の主な課題

- 生徒数減少。
 - ・集団活動の機会が十分に確保できない。また、人間関係が固定化しやすい。
 - ・学校行事や生徒会活動等の活力が乏しくなる。行事の精選も必要となる。
 - ・希望進路に応じたコースの設定や選択科目の開講が行えない可能性がある。
 - ・部活動での部員数の確保が困難となる。団体競技においては公式戦に出場できなくなることも考えられる。
- 教員数減少。
 - ・生徒の多様な希望に対応した教科等の設定が難しくなる。
 - 例) ・特色あるコース設定が難しくなる。
 - ・同一教科の教員が少なくなるため、習熟度別授業や少人数講座の開講が難しくなる。
 - ・芸術、家庭、情報等の授業時数の少ない教科については非常勤講師が授業を担当することになる。
 - ・適正な分掌配置が困難になり、校務分掌業務に支障をきたす可能性が生じる。
 - ・教員が学校以外で活動することが難しくなる。(中学生対象の出前授業等)
 - ・非常勤講師の担当授業が増え、授業以外での生徒の質問への対応や放課後補習等の指導が難しくなる。
 - ・部活動での顧問数の確保が難しくなる。

■教育課程上の影響

定 員	360人（1学年3学級）				240人（1学年2学級）			
標準法に基づく算定定数 ・ 教科別教員数の配当例	22人	国 語 3	保健体育 3		15人	国 語 2	保健体育 2	
		地歴公民 3	芸 術 2			地歴公民 2	芸 術 1	
		数 学 3	英 語 4			数 学 3	英 語 3	
		理 科 3	家 庭 1			理 科 2		
コース分け	3つのコースを設定可能				2年より文系・理系の選択は可能			
習熟度別授業 ・少人数講座	国語：科目「国語表現」で少人数 数学：1、2年で習熟度、少人数 英語：全学年で習熟度、少人数				教科の教員数が3人未満の場合は 実施困難			
選 択 科 目	就職希望者用の選択科目開講 2年次、3年次に商業科目、家庭科 目を4単位程度開講				選択科目開講は本務者や定数内講師 での対応は不可			
週当たりの授業時間数	1、2年：32時間、3年：30時間				全学年：30時間			

■他府県の小規模校（本校）の状況

- ◇特徴
 - ・中山間地域や離島など、閉校になった場合に地元地域の生徒が進学できる高校がかなり遠方となる場所に立地していることが多い。
 - ・市町村が入学生への支援制度（通学費の補助など）を整備し、生徒を集める取組を行うなど、地元地域が高等学校を支えている事例がある。また、県立から市町村立に移管したり、小・中・高等学校で一貫した教育活動を行っているところもある。
- ◇課題
 - ・様々な取組、支援が行われる中であっても、子どもの絶対数が少ないなどの事情により定員が充足できない学校も多い。
 - ・特色ある学科を設置するなど、他の地域からも生徒を呼び込む取組を行い定員を充足する学校がある一方、地元の子どもの修学保障のために、普通科又はそれに類する教育内容の学科を設置するため、他校と大きく異なる特色が出しにくく、定員の充足につながらない学校も見受けられるなど、定員充足と修学保障を両立させることには一定の課題がある。

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方

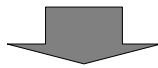
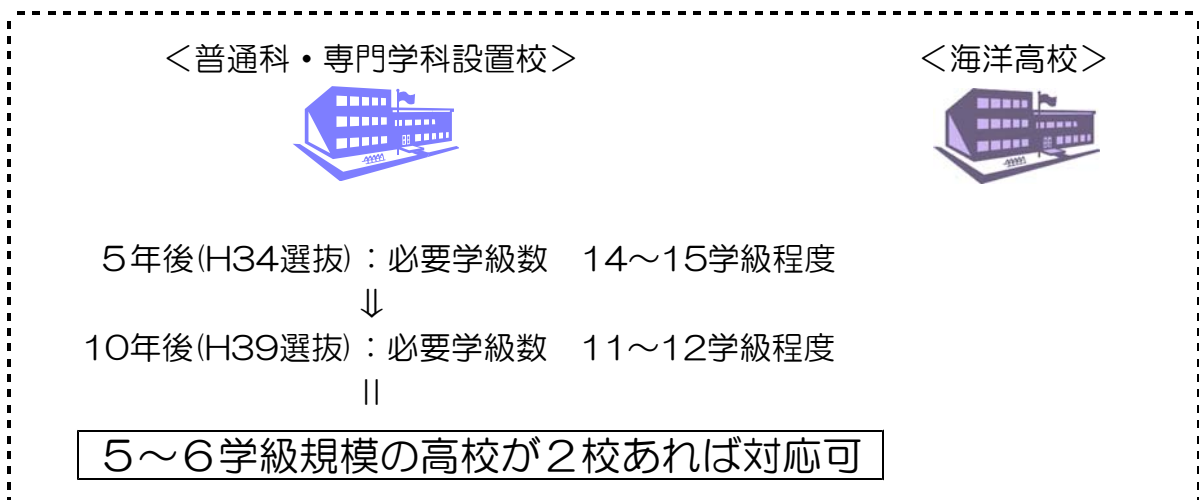
【丹後地域の府立高校の主な役割】

- 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育
 - 多様な学びの場の保障、教育環境の充実、教育の質の維持・向上など
- 各地域の将来を支える人材の育成
- 地域社会の活性化への貢献—地域の最高教育機関としての役割

【課題認識】

- 丹後地域では平成28年度の中学校3年生が約900名と1,000名を割り込み、さらに減少傾向が続くと見込まれる。
- 学校の小規模化によって、学校教育活動にさまざまな課題が生じるのではないかとの危惧から、より魅力ある高校教育を推進するため、府立高校の今後の在り方や活性化策について検討する。

生徒数推計だけをもとに考えた場合..



地域における府立高校の役割などを考えると..

- 単に、生徒数だけをもとにした再編・統合は行わない。
- 丹後地域における通学事情を考慮する。
- 学校規模が小規模化することによる課題をできる限り解消する。

【三つの道】

I 各校を本校のまま継続設置

宮津高校

加悦谷高校

峰山高校

網野高校

久美浜高校

海洋高校

〈募集定員推計〉

28選抜	190	120	280	150	90
34選抜	150	70	210	100	60
39選抜	110	60	160	80	50

小規模校の課題解消策の検討
新しい教育内容の検討（新学科の設置、学科改編等）

現教育内容を継承・充実

II 統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図る

【宮津・与謝地域】

1校に統合

【京丹後地域】

2校に統合

海洋高校

新しい教育内容の検討（新学科の設置、学科改編等）

現教育内容を継承・充実

III 現行の本校校舎を活かした教育活動を継承
 単独校＋学舎制(キャンパス化)の導入を検討

〈学舎制〉

A高校

B高校

⇒

○
○
高校

□□学舎

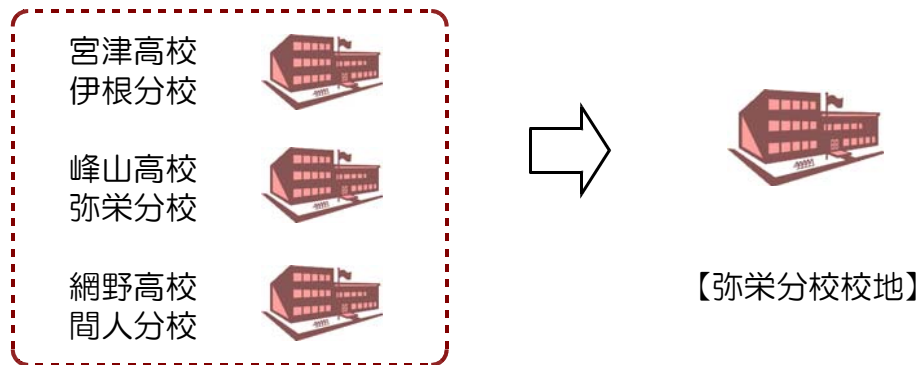
△△学舎

単独校

分校

3校を1校に統合して機能を集約

峰山高校弥栄分校の校地に統合し、京都フレックス学園構想に基づく柔軟な教育システムによる教育を推進



今後の主な検討事項

- 再編を行う場合の対象校の決定
- 各高校（学舎）に設置する学科・コースの検討
- 1学級40人を前提としない学級編制の検討
- 学舎制を導入した場合の学舎間の移動手段の確保
（スクールバスの運行、公共交通機関との調整など）
- ICT機器を活用した遠隔授業の実施 など

今後のスケジュール

- 第4回懇話会を平成28年7月下旬から8月初旬開催予定
- 平成28年7月を目途に、地域別公聴会を開催予定
 - ・地域：宮津市、与謝野町、京丹後市[3カ所]の計5カ所
 - ・対象者：主として小・中学生の保護者
- 同年8月を目途に丹後地域の府立高校の在り方について方向性(計画)[案]を策定
府民意見募集を実施後、9月を目途に方向性(計画)を決定する予定

学舎制のイメージ・導入により広がる可能性や課題

■学舎制のイメージ

～これまでの本校・分校といった固定観念や呼称にとらわれない新しい高校づくり～

◎学校の再編に当たり、小規模校の課題の解消や教育環境の充実、通学の利便性を図ることなどを旨として、近隣の高校を1つの高校とし、学校運営において統一した基本方針のもと、今ある高校の校舎をそれぞれ活用し、連携・交流を積極的に行うことにより、複数の校舎を持つ1つの高校として機能させるもの。

- ・他府県でも導入されており、校舎制やキャンパス制などとも呼称されている。
- ・学舎間に上下関係はなく、それぞれが魅力ある教育活動を行うものとする。
- ・基本となる授業はそれぞれの学舎で行うが、教員が学舎を移動して授業を行ったり、生徒が移動して特別授業を合同実施するなど、多様な交流機会を持たせる。

■学舎制導入により広がる可能性や課題（例示）

<広がる可能性>

教育体制の充実	出張授業	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、芸術など単位数の少ない教科でも専門の教員の授業を受けることができる。 ・地歴・公民や理科では、より専門性の高い教員の授業が受けられる。 ・より多くの小科目が開講可能となり、生徒の選択の幅が広がる。 ・授業の達人、スペシャリスト等指導力の高い教員の有効な活用効果が期待できる。
	遠隔教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学舎間でICT機器を利用した同時双方向性の授業が可能になる。（府立高校初） ・数学や英語では、学舎合同で、習熟度・少人数授業が可能になる。 ・アクティブラーニングでは、より多くの生徒とのグループ活動が可能になる。 ・学舎合同での会議（教員同士、生徒同士）が居ながらにして可能になる。
	教員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学舎の教員定数を合わせて活用することができる。 ・分掌業務の分担により、教員が生徒と向き合う時間が増加する。 ・経験、教科、特性等バランスの取れた教員配置により、学校の教育力が高まる。 ・異なる学舎の教員間で学習指導、生徒指導等の研修の機会が増える。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学舎合同での補習や長期休業中の補習が可能になり、多岐に渡る補習講座の開講が可能になる。 ・就職指導、進学指導において情報、ノウハウを共有することにより、より効果的な進路指導が可能になる。
教科外活動の充実	学校行事	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の合同実施により、大集団での活動が可能になる。 ・合同行事の企画により、生徒の思考力、企画力、協働力を高めることができる。 ・小規模校に比べ、一人一人の生徒、教員の負担が小さくなり、実施が容易になる。 ・各学舎の強みを共有することで、新たな特色を生み出すことが期待できる。
	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・合同で活動することにより、部員数が増え、公式戦、発表会等の機会が増える。 ・教員数の増加により顧問が確保でき、部の存続が保障しやすくなる。 ・より専門性の高い顧問、経験豊かな顧問が指導にあたる可能性が高くなる。 ・生徒の活躍が地域の活性化につながる。 ・より多くの小中学生との連携により、高校が地域スポーツ・文化の拠点となる。
	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が関わることで、多岐に渡る活動が可能となる。 ・多くの生徒と活動することにより、社会性、協調性を身につける機会が増す。 ・学舎の地域との連携により、地域ボランティア活動の幅が広がる。 ・生徒数の増加により予算規模が大きくなり、学校行事、部活動が活性化できる。 ・各学舎の生徒が知恵を出し合い、新たな学校文化の創造が可能となる。

<主な課題>

- 学舎間での役割分担や緊密な連絡調整・情報共有など
同一校としての一体感の醸成、校務分掌や教育課程の編成、学校行事や部活動の合同実施に向けた調整 など
- 学舎間の移動手段の確保
授業や部活動、学校行事などにおける移動時間を考慮した移動手段の確保 など

丹後地域の中学校・高等学校の配置及び中学校別在籍状況



■平成28年度 高等学校の在籍生徒数(丹後管内公立中学校からの進学者のみ抜粋) 単位:人

高校(学科・生徒総数)	中学校	宮津市立			京丹後市立						伊根町立	与謝野町立	組合立		
		宮津中学校	栗田中学校	養老中学校	峰山中学校	大宮中学校	網野中学校	丹後中学校	弥栄中学校	久美浜中学校	伊根中学校	加悦中学校	江陽中学校	橋立中学校	
宮津高校	普通	全516人	112	24	8	24	52	14	8	22	3	21	43	69	115
	建築	全88人	29	7	1	2	4	2		1		3	9	10	4
海洋高校	海洋学科群	全287人	20	24	2	4	2	10	1	1		8	4	12	17
加悦谷高校	普通	全354人	16	2	3	1	35	1		1		1	93	140	61
峰山高校	普通	全598人	2			180	114	81	35	62	89		11	17	6
	産業工学	全114人				51	25	3	12	10	6		4	2	1
網野高校	普通	全340人				18	9	216	44	24	26			1	1
	企画経営	全90人				8	5	51	8	10	7				
久美浜高校	総合	全252人	2			53	23	46	8	16	91		3	4	3
宮津高校伊根分校	普通	全39人	9	1	1							2	8	8	10
峰山高校弥栄分校	農園芸	全43人				8	4	4	7	8	2		2	7	
	家政	全31人	1			3	8	2	4	8	1		2		1
網野高校間人分校	普通	全45人				5	2	27	4	6	1				

※閉校となった中学校からの入学者数は平成28年度現在の中学校で合算(休校中の日置中は橋立中に合算)